

「大学の質」が内々定獲得に与える影響

梅崎修(法政大学キャリアデザイン学部)

平尾智隆(摂南大学経済学部)

広島大学高等教育研究開発センター公開研究会

2020年8月17日 オンライン開催



1

研究の目的

- 「大学の質」(College Quality)が大学生の内々定獲得に与える影響を分析する。

「大学の質」とは？

- 「大学組織の質」を計量的に捉える。
 - 学生数, 教員数, 職員数, 収入額, 資産額, 財務状況など。
- 「大学教育の質」を計量的に捉える。
 - ST比, 教育経費, 就職支援など。
 - 大学ランク(学力偏差値)

(この種の)研究の意義

個人

- どのような大学が自分の未来を切り開いてくれるのか。
- 大学選択の基礎資料。

政府・政策担当者

- どのような大学の学生が就職に有利なのか(政策評価)。
- どのように大学に支援を行えばよいのか(政策実施)。
- 政策の基礎資料

大学

- どのように大学運営を行えばよいのか。
- 大学運営の基礎資料。

先行研究1

Ono (2003)

- 大学の質(学力偏差値)が所得に与える影響を分析。
- 旺文社データ, SSMデータを使用した分析。
- “college quality significantly improves earnings”

- 学力偏差値は, 所得に極めて大きな正の効果を持つ。
- 選抜度の高い大学に進学できるか否かが重要。
- その他の「大学の質」にまで分析が及んでいない。

先行研究2

Nakamuro and Inui (2013)

- 大学の質(大学属性)が所得に与える影響を分析。
- 学校基本調査の個票データ, 双子調査データ
- “the effect of college quality on earnings became indistinguishable from zero”

- 大学の質は所得にほとんど影響しないという結果。
- 標本が大学生活を送った時期の大学の質データと接合できていないという課題が残る。

今回の研究

- 平尾・梅崎・田澤(2015)で使用したある就職情報会社(A社)の調査データと大学四季報データを結合させる。
- 平尾・梅崎・田澤(2015)では、学部卒に対する大学院卒の初職獲得の優位・劣位を分析した。
- 平尾・梅崎・田澤(2015)の分析を拡張し、「大学の質」を考慮した内々定獲得の分析を行う。

本研究の新規性

- 大学の質に関する新しい計量データの利用(大学四季報)
- 「大学の質」が内々定獲得に与える影響

データ

- A社「内定率調査」
 - －大学生の内々定状況，就職活動状況，大学名など。
 - －全国の大学生の内々定状況（2012年8月現在）。
 - －条件のよい・人気のある初職の獲得について分析できる。
 - －参考：2012年の大卒求人倍率は1.27倍。
- 東洋経済新報社「大学四季報データベース」
 - －学生数，教員数，財務状況，大学名など。
 - －2012年の大学四季報データベースを使用。
- 上記のデータを大学名でmergeする。

「大学の質」に関する計量データ

- 文部科学省「学校基本調査」
 - － 公的統計。網羅的な情報。個票入手の困難性。
 - － (たぶん)データセット作成の手間が大きい。
- 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」
 - － 公的統計。網羅的な情報。WEB公開。
 - － データセット作成の手間が大きい。
 - － データが国公立大学・短期大学に限られる。
- 東洋経済新報社「大学四季報データベース」
 - － ビジネス統計。基本的な情報。予算必要。
 - － データセット作成の手間がほぼない。
 - － 国公立大学と私立大学で調査項目に違いがある。

考慮する必要がある点

- 多重共線性の問題
 - － 学生数 ↑ ≒ 教員数 ↑ ≒ 職員数 ↑ ≒ 収入 ↑ ≒ 資産 ↑
- 国公立大学と私立大学で調査項目の相違
 - － 対処法としては以下の2つ。
 - － 共通の調査項目のみを用いて分析する。
 - － 標本を国公立大学と私立大学に分けて分析する。

本研究における「大学の質」

大学四季報から

- 学生数(大学組織の規模)
- 教員1人当たり学生数:ST比(教育の質)
- 職員1人当たり学生数:SS比(サービスの質)
- 収入に占める教育研究経費割合(教育投資)

被説明変数

「これまでの進捗をお聞かせ下さい」(A社調査)

1. まだ内定は貰っていないが別の進路を選択若しくは検討中
当初は就職をしようと就職情報サイトに登録して就職活動を行ったものの、内々定を獲得することができず、調査時点で就職活動を行っていない可能性があり、求職者とはいえないかもしれない。
2. まだ内定は貰っていないので活動継続中
3. 内定を貰っているが活動継続中
サーチ理論でいうところのマッチングが未だ自身の留保水準を超えていない。
4. 内定を貰い就職先を決めて活動終了
サーチ理論でいうところの留保水準を超えたマッチングを実現。

被説明変数

- A) ①②=0 ③④=1とした二値確率変数
内々定の有無で二値確率変数に分ける。
- B) ①=. ②=0 ③④=1とした二値確率変数
求職者でない者を除く。
- C) そのまま順序変数
サーチ理論でいうところの留保水準を考慮する。
- D) ①=. ②=2 ③=3 ④=4とした順序変数
求職者でない者を除きサーチ理論でいうところの留保水準を考慮する。

説明変数

- 属性等 (A社調査)
 - 理系ダミー, 男性ダミー, 就職活動量 (説明会参加社数)ダミー, 居住地域ダミー
- 大学ランクダミー変数 (A社調査, 大学四季報)
 - 難関国立ダミー, その他国立ダミー, 公立ダミー
 - 難関私立ダミー, その他私立ダミー
- 「大学の質」変数 (大学四季報)
 - 学生数 (人), ST比 (人), SS比 (人), 教育投資 (教育投資フラグ) (%)

大学ランクダミー変数

- 難関国立ダミー

北海道, 東北, 東京, 名古屋, 京都, 大阪, 九州, 一橋, 神戸, 東京工業, 筑波, 横浜国立, お茶の水女子=1, それ以外=0

- その他国立ダミー: 難関国立以外の国立=1, それ以外=0

- 公立ダミー: 公立=1, それ以外=0

- 有名私立ダミー

早稲田, 慶應義塾, 上智, 明治, 法政, 立教, 青山学院, 中央, 学習院, 国際基督教, 津田塾, 東京理科, 南山, 関西学院, 関西, 同志社, 立命館, 西南学院=1, それ以外=0

- その他私立ダミー

有名私立以外の私立=1, それ以外=0

教育投資変数

- 教育投資(国公立大学)
= (教育経費 + 研究経費 + 診療経費 + 教育研究支援経費) ÷ 経常費用
- 教育投資(私立大学)
= 教育研究経費(病院経費を含む) ÷ 帰属収入
- 教育投資フラグダミー(国公立大学)
評価A+(43.1%以上), 評価A(38.0~43.0%), 評価A-(30.0~37.9%),
評価B+(24.0~29.9%), 評価B(23.9%以下)
- 教育投資フラグダミー(私立大学)
評価A+(39.0%以上), 評価A(35.4~38.9%), 評価A-(27.7~35.3%),
評価B+(23.9~27.6%), 評価B(23.8%以下)

仮説

- 同じ大卒予定者の中で就職結果に差がある。なぜか？
 - 難関校在籍者の方が就職結果は良い。なぜか？
1. 教育の質の差
 - － 人的資本理論 → 「大学の質」は就職結果にプラスに影響
 - － 質の高い教育を受けることで能力アップ → よい就職結果。
 2. 教育のシグナル効果
 - － シグナリング理論 → 「大学の質」は影響を及ぼさない
 - 大学ランクはプラスに影響
 - － 教育が能力アップにつながるのではない。
 - － 選抜度の高い大学に入学できるか否かがよい就職結果につながる。

実証分析

- 平尾・梅崎・田澤(2015)の推定モデルに、「大学の質」変数を加え、プロビット分析と順序プロビット分析を実施した。

推定の結果を先にまとめると・・・

1. 大学ランクは内々定獲得に正で有意。
2. 国公立大学で教育投資が正で有意(教育投資Bダミー変数が負で有意)。
3. 特に私立大学で学生数が正で有意。
4. ただし、3の影響力はほぼゼロ。

	(A1) 国公立大学		(A2) 国公立大学		(A3) 私立大学		(A4) 私立大学	
	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差
大学								
難関国立	0.126	0.119	0.134	0.113				
その他国立	0.135	0.085	0.185 *	0.088				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.163 ***	0.035	0.181 ***	0.036
その他私立					ref.		ref.	
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000 *	0.000	0.000 +	0.000
S T比	0.011	0.008	0.012	0.008	-0.001	0.002	-0.001	0.002
S S比	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
教育投資	0.009 *	0.004			0.001	0.002		
教育投資								
A+			0.081	0.091			0.089 +	0.053
A			ref.				ref.	
A-			0.033	0.089			0.056	0.044
B+			-0.105	0.100			0.063	0.048
B			-0.240 *	0.110			0.042	0.058
その他の変数	yes		yes		yes		yes	
観測数	444		444		1840		1840	
カイ2乗値	33.11 *		35.61 *		114.48 ***		117.62 ***	
対数尤度	-265.62		-264.14		-1215.64		-1214.14	

***0.1%, **1%, *5%, +10%水準で有意。標準誤差は頑健な標準誤差。以下同じ。

	(B1) 国公立大学		(B2) 国公立大学		(B3) 私立大学		(B4) 私立大学	
	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差
大学								
難関国立	0.113	0.113	0.113	0.110				
その他国立	0.125	0.084	0.159 +	0.089				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.157 ***	0.036	0.173 ***	0.036
その他私立					ref.		ref.	
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000 **	0.000	0.000 *	0.000
S T比	0.009	0.008	0.009	0.008	-0.002	0.002	-0.001	0.002
S S比	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
教育投資	0.009 *	0.004			0.000	0.003		
教育投資								
A+			0.078	0.089			0.084	0.053
A			ref.				ref.	
A-			0.001	0.089			0.058	0.045
B+			-0.095	0.103			0.076	0.049
B			-0.225 *	0.115			0.055	0.058
その他の変数	yes		yes		yes		yes	
観測数	419		419		1749		1749	
カイ2乗値	32.82 *		33.27 +		102.23 ***		105.29 ***	
対数尤度	-237.82		-237.11		-1154.33		-1152.71	

	(C1) 国公立大学		(C2) 国公立大学		(C3) 私立大学		(C4) 私立大学	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
大学								
難関国立	0.474	0.380	0.487	0.367				
その他国立	0.371 +	0.202	0.477 *	0.204				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.379 ***	0.086	0.419 ***	0.089
その他私立					ref.		ref.	
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
S T比	0.023	0.019	0.027	0.018	-0.001	0.004	0.000	0.004
S S比	0.001	0.002	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.002
教育投資	0.015	0.011			0.006	0.006		
教育投資								
A+			0.244	0.253			0.198	0.121
A			ref.				ref.	
A-			0.148	0.224			0.078	0.098
B+			-0.128	0.241			0.067	0.109
B			-0.360	0.251			0.042	0.128
その他の変数	yes		yes		yes		yes	
観測数	444		444		1840		1840	
カイ2乗値	32.44 *		37.48 *		114.71 ***		115.95 ***	
対数尤度	-470.18		-468.81		-2033.04		-2032.04	

	(D1) 国公立大学		(D2) 国公立大学		(D3) 私立大学		(D4) 私立大学	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
大学								
難関国立	0.471	0.382	0.471	0.376				
その他国立	0.421 +	0.224	0.510 *	0.240				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.399 ***	0.087	0.439 ***	0.090
その他私立					ref.		ref.	
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000 **	0.000	0.000 *	0.000
S T比	0.020	0.022	0.021	0.021	-0.004	0.004	-0.002	0.005
S S比	0.002	0.003	0.001	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002
教育投資	0.020 +	0.012			0.002	0.006		
教育投資								
A +			0.283	0.275			0.186	0.130
A			ref.				ref.	
A -			0.062	0.250			0.084	0.109
B +			-0.115	0.264			0.128	0.120
B			-0.391	0.284			0.092	0.144
その他の変数	yes		yes		yes		yes	
観測数	419		419		1749		1749	
カイ2乗値	34.78 *		34.9 *		103.12 ***		105.51 ***	
対数尤度	-372.63		-371.95		-1676.72		-1675.59	

	(A) 全体		(B) 全体		(C) 全体		(D) 全体	
	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
大学								
難関国立	0.158 *	0.060	0.163 *	0.060	0.444 *	0.176	0.547 **	0.177
その他国立	0.227 ***	0.035	0.228 ***	0.034	0.555 ***	0.100	0.648 ***	0.103
公立	0.151 **	0.044	0.166 **	0.043	0.307 **	0.118	0.451 ***	0.120
有名私立	0.160 ***	0.033	0.150 ***	0.033	0.382 ***	0.082	0.400 ***	0.084
その他私立	ref.		ref.		ref.		ref.	
大学の質								
学生数	0.000 **	0.000	0.000 ***	0.000	0.000 *	0.000	0.000 ***	0.000
S T比	-0.001	0.002	-0.002	0.002	0.000	0.004	-0.004	0.004
S S比	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	0.002	0.001
その他の変数	yes		yes		yes		yes	
観測数	2360		2237		2360		2237	
カイ2乗値	162.62 ***		153.39 ***		155.04 ***		161.61 ***	
対数尤度	-1543.36		-1447.81		-2614.19		-2127.44	

学生数の影響力

- 学生数の内々定獲得への影響力は大きくはないだろう。
推定A3の学生数の限界効果は0.00000238
 - 学生数が1増加すると学生の内々定確率が0.000238%上昇。
 - 学生数が100増加すると学生の内々定確率が0.0238%上昇。
 - 学生数が1000増加すると学生の内々定確率が0.238%上昇。推定Aの学生数の限界効果は0.0000026
 - 学生数が1増加すると学生の内々定確率が0.00026%上昇。
 - 学生数が100増加すると学生の内々定確率が0.026%上昇。
 - 学生数が1000増加すると学生の内々定確率が0.26%上昇。
- 大学において学生数を100ないし1000増加させることは何を意味するか？

分析結果のまとめ

- 大学ランクの正の効果。
- 「大学の質」の正の効果，ただしその影響力は大きくない。
- 以上から，日本の大学生の内々定獲得は，教育のシグナル効果による影響が大きいと暫定的に結論付けられる。

(暫定的結論の補足)

- 日本の大学は，入学するのが難しく，卒業するのが容易といわれる。矢野(2015)がいう卒業主義。
- 新規学卒労働市場での就職活動は，厳密には卒業前。卒業していないので，どの大学に入学したがシグナルになる。

その他の分析結果

A1～A4の推定について

- 男性ダミー変数の限界効果は正で有意。
- 就職活動量ダミー変数の限界効果は正で有意。
- 地域ダミー変数は有意ではない。

残された課題

- 学校ランクが内生変数であることについて、十分な対応ができていない。
- そもそも、学生数、ST比、SS比、教育投資で「大学の質」が捉えられているのか。

引用文献

- 平尾智隆・梅崎修・田澤実(2015)「大学院卒の就職プレミアム—初職獲得における大学院学歴の効果」『日本労務学会誌』16(1), pp.21-38. (後に, 梅崎修・田澤実編(2019)『大学生の内定獲得』法政大学出版社, 第5章に所収)
- Nakamuro, Makiko and Tomohiko Inui (2013) “The Returns to College Quality in Japan: Does Your College Choice Affect Your Earnings?” ESRI Discussion Paper Series No.306.
- Ono, Hiroshi (2004) “College Quality and Earnings in the Japanese Labor Market,” *Industrial Relations*, 43(3), pp. 595-617.
- 矢野眞和(2015)『大学の条件—大衆化と市場化の経済分析』東京大学出版会.

謝辞

以下の研究助成に感謝いたします。

- JP19H00621 (研究代表者: 小林信一「知のオープン化時代の大学・科学関連システムの再構築」)
- JP19H00619 (研究代表者: 松繁寿和「社会的能力の特定化とその育成適正期および教育効果の検証」)
- JP20H01643 (研究代表者: 村澤昌崇「EBPMの批判的検討を通じた高等教育政策・研究の高度化とEIPMへの展開可能性」)
- JP20J14673 (日本学術振興会特別研究員: 中尾走「高等教育政策を事例にしたEBPMの批判的検討」)

ご静聴ありがとうございました。

表A 内々定獲得を決定する要因（プロビット分析）

	(A1)国公立大学		(A2)国公立大学		(A3)私立大学		(A4)私立大学	
	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差
属性								
理系	-0.092 +	0.052	-0.101 +	0.053	0.024	0.032	0.025	0.033
男性	0.145 **	0.047	0.142 **	0.047	0.061 *	0.025	0.062 *	0.025
大学								
難関国立	0.126	0.119	0.134	0.113				
その他国立	0.135	0.085	0.185 *	0.088				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.163 ***	0.035	0.181 ***	0.036
その他私立					ref.		ref.	
就職活動量								
説明会10	ref.		ref.		ref.		ref.	
説明会20	0.033	0.059	0.034	0.059	0.100 **	0.036	0.100 **	0.036
説明会30	0.121 *	0.057	0.122 *	0.057	0.039	0.039	0.039	0.039
説明会40	0.138 +	0.070	0.147 +	0.069	0.195 ***	0.038	0.196 ***	0.038
説明会50	0.179 +	0.074	0.174 +	0.075	0.181 ***	0.042	0.182 ***	0.042
説明会60	0.136	0.102	0.132	0.104	0.215 ***	0.047	0.215 ***	0.047
説明会70	0.242 +	0.081	0.248 *	0.077	0.167 **	0.046	0.171 ***	0.046
居住地域								
北海道・東北	ref.		ref.		ref.			
関東	0.053	0.077	0.069	0.076	-0.063	0.050	-0.061	0.050
中部	0.070	0.078	0.092	0.080	-0.002	0.058	-0.001	0.059
近畿	-0.010	0.090	0.033	0.090	-0.083	0.052	-0.082	0.052
中国・四国	0.107	0.077	0.115	0.079	-0.098	0.076	-0.087	0.077
九州・沖縄	-0.019	0.083	-0.004	0.090	-0.034	0.066	-0.022	0.067
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000 *	0.000	0.000 +	0.000
S T比	0.011	0.008	0.012	0.008	-0.001	0.002	-0.001	0.002
S S比	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
教育投資	0.009 *	0.004			0.001	0.002		
教育投資								
A+			0.081	0.091			0.089 +	0.053
A			ref.				ref.	
A-			0.033	0.089			0.056	0.044
B+			-0.105	0.100			0.063	0.048
B			-0.240 *	0.110			0.042	0.058
観測数	444		444		1840		1840	
カイ2乗値	33.11 *		35.61 *		114.48 ***		117.62 ***	
対数尤度	-265.62		-264.14		-1215.64		-1214.14	

出所：筆者作成。

注：***0.1%水準，**1%水準，*5%水準，+10%水準で有意。標準誤差はRobust Standard Errorである。

表B 内々定を決定する要因（プロビット分析，別の進路検討中を除く）

	(B1)国公立大学		(B2)国公立大学		(B3)私立大学		(B4)私立大学	
	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差
属性								
理系	-0.094 +	0.051	-0.105 *	0.053	0.033	0.033	0.035	0.033
男性	0.149 **	0.045	0.146 **	0.045	0.063 *	0.025	0.065 *	0.025
大学								
難関国立	0.113	0.113	0.113	0.110				
その他国立	0.125	0.084	0.159 +	0.089				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.157 ***	0.036	0.173 ***	0.036
その他私立					ref.		ref.	
就職活動量								
説明会10	ref.		ref.		ref.		ref.	
説明会20	0.025	0.058	0.026	0.058	0.075 *	0.037	0.075 *	0.037
説明会30	0.138 *	0.054	0.138 *	0.054	0.023	0.040	0.023	0.040
説明会40	0.130 +	0.067	0.132 +	0.066	0.163 ***	0.039	0.165 ***	0.039
説明会50	0.136	0.074	0.132	0.075	0.161 ***	0.043	0.162 ***	0.043
説明会60	0.092	0.103	0.088	0.104	0.183 **	0.049	0.183 **	0.049
説明会70	0.191	0.086	0.198	0.082	0.132 **	0.048	0.136 **	0.048
居住地域								
北海道・東北	ref.		ref.		ref.			
関東	0.054	0.076	0.060	0.076	-0.054	0.051	-0.051	0.051
中部	0.035	0.079	0.051	0.081	-0.008	0.059	-0.005	0.060
近畿	-0.005	0.090	0.018	0.091	-0.079	0.053	-0.076	0.053
中国・四国	0.058	0.080	0.064	0.082	-0.104	0.078	-0.091	0.079
九州・沖縄	-0.020	0.084	-0.008	0.090	-0.025	0.068	-0.011	0.068
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000 **	0.000	0.000 *	0.000
S T比	0.009	0.008	0.009	0.008	-0.002	0.002	-0.001	0.002
S S比	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
教育投資	0.009 *	0.004			0.000	0.003		
教育投資								
A +			0.078	0.089			0.084	0.053
A			ref.				ref.	
A -			0.001	0.089			0.058	0.045
B +			-0.095	0.103			0.076	0.049
B			-0.225 *	0.115			0.055	0.058
観測数	419		419		1749		1749	
カイ2乗値	32.82 *		33.27 +		102.23 ***		105.29 ***	
対数尤度	-237.82		-237.11		-1154.33		-1152.71	

出所：筆者作成。

注：***0.1%水準，**1%水準，*5%水準，+10%水準で有意。標準誤差はRobust Standard Errorである。

表C 内々定を決定する要因 (順序プロビット分析)

	(C1) 国公立大学		(C2) 国公立大学		(C3) 私立大学		(C4) 私立大学	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
属性								
理系	-0.213 +	0.126	-0.234 +	0.130	0.071	0.077	0.072	0.077
男性	0.422 **	0.133	0.409 **	0.134	0.116 *	0.055	0.116 *	0.055
大学								
難関国立	0.474	0.380	0.487	0.367				
その他国立	0.371 +	0.202	0.477 *	0.204				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.379 ***	0.086	0.419 ***	0.089
その他私立					ref.		ref.	
就職活動量								
説明会10	ref.		ref.		ref.		ref.	
説明会20	0.073	0.151	0.075	0.151	0.270 **	0.085	0.271 **	0.085
説明会30	0.186	0.168	0.183	0.168	0.114	0.089	0.113	0.089
説明会40	0.244	0.209	0.265	0.207	0.501 ***	0.093	0.502 ***	0.093
説明会50	0.523 *	0.249	0.506 *	0.250	0.439 ***	0.105	0.439 ***	0.105
説明会60	0.119	0.251	0.111	0.257	0.482 ***	0.116	0.480 ***	0.116
説明会70	0.627 +	0.320	0.650 *	0.319	0.387 ***	0.108	0.395 ***	0.108
居住地域								
北海道・東北	ref.		ref.		ref.			
関東	0.133	0.216	0.162	0.217	-0.141	0.111	-0.144	0.111
中部	0.224	0.207	0.287	0.212	0.050	0.128	0.045	0.129
近畿	-0.019	0.234	0.090	0.232	-0.160	0.114	-0.164	0.115
中国・四国	0.352	0.216	0.389 +	0.218	-0.150	0.165	-0.137	0.165
九州・沖縄	-0.059	0.209	0.001	0.220	-0.118	0.147	-0.101	0.147
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
S T比	0.023	0.019	0.027	0.018	-0.001	0.004	0.000	0.004
S S比	0.001	0.002	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.002
教育投資	0.015	0.011			0.006	0.006		
教育投資								
A+			0.244	0.253			0.198	0.121
A			ref.				ref.	
A-			0.148	0.224			0.078	0.098
B+			-0.128	0.241			0.067	0.109
B			-0.360	0.251			0.042	0.128
閾値1	-0.286	0.576	-0.685	0.409	-1.112	0.251	-1.205	0.179
閾値2	0.921	0.581	0.528	0.402	0.582	0.247	0.489	0.177
閾値3	1.238	0.582	0.847	0.403	0.913	0.247	0.821	0.177
観測数	444		444		1840		1840	
カイ2乗値	32.44 *		37.48 *		114.71 ***		115.95 ***	
対数尤度	-470.18		-468.81		-2033.04		-2032.04	

出所：筆者作成。

注：***0.1%水準，**1%水準，*5%水準，+10%水準で有意。標準誤差はRobust Standard Errorである。

表D 内々定を決定する要因 (順序プロビット分析)

	(D1)国公立大学		(D2)国公立大学		(D3)私立大学		(D4)私立大学	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
属性								
理系	-0.263 +	0.137	-0.298 *	0.141	0.131	0.080	0.135 +	0.081
男性	0.535 ***	0.139	0.523 ***	0.139	0.145 *	0.060	0.149 *	0.060
大学								
難関国立	0.471	0.382	0.471	0.376				
その他国立	0.421 +	0.224	0.510 *	0.240				
公立	ref.		ref.					
有名私立					0.399 ***	0.087	0.439 ***	0.090
その他私立					ref.		ref.	
就職活動量								
説明会10	ref.		ref.		ref.		ref.	
説明会20	0.054	0.169	0.057	0.169	0.142	0.093	0.143	0.093
説明会30	0.323 +	0.179	0.314 +	0.180	0.007	0.099	0.006	0.099
説明会40	0.276	0.220	0.282	0.220	0.358 ***	0.101	0.362 ***	0.101
説明会50	0.395	0.274	0.376	0.275	0.352 **	0.111	0.356 **	0.111
説明会60	-0.064	0.297	-0.062	0.301	0.325 **	0.125	0.325 **	0.125
説明会70	0.462	0.348	0.485	0.346	0.213 +	0.118	0.222 +	0.118
居住地域								
北海道・東北	ref.		ref.		ref.			
関東	0.120	0.227	0.125	0.231	-0.095	0.119	-0.089	0.119
中部	0.034	0.228	0.096	0.239	0.031	0.138	0.043	0.140
近畿	-0.031	0.256	0.035	0.267	-0.153	0.124	-0.145	0.125
中国・四国	0.114	0.235	0.151	0.244	-0.190	0.192	-0.165	0.193
九州・沖縄	-0.128	0.227	-0.062	0.244	-0.063	0.158	-0.035	0.159
大学の質								
学生数	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000 **	0.000	0.000 *	0.000
S T比	0.020	0.022	0.021	0.021	-0.004	0.004	-0.002	0.005
S S比	0.002	0.003	0.001	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002
教育投資	0.020 +	0.012			0.002	0.006		
教育投資								
A+			0.283	0.275			0.186	0.130
A			ref.				ref.	
A-			0.062	0.250			0.084	0.109
B+			-0.115	0.264			0.128	0.120
B			-0.391	0.284			0.092	0.144
閾値1	0.947	0.669	0.327	0.463	0.317	0.276	0.376	0.193
閾値2	1.296	0.669	0.678	0.463	0.664	0.276	0.723	0.193
観測数	419		419		1749		1749	
カイ2乗値	34.78 *		34.9 *		103.12		105.51 ***	
対数尤度	-372.63		-371.95		-1676.72		-1675.59	

出所：筆者作成。

注：***0.1%水準，**1%水準，*5%水準，+10%水準で有意。標準誤差はRobust Standard Errorである。